

「皆様に支えられて、祖母は御年九十五歳」 三橋 いづみ様

出勤時、ふと見上げると祖母の居室。今日も一緒に、朝を迎えられた。安堵し、一日のスタートを切る。

幼き頃、祖母の優しい背中におぶさり、近所を散歩した。元気よく歩いて、一緒にきのこと採りにも出掛けた。夜眠る前、祖母の布団の中で絵本を読み聞かせて貰ったあの、温かな時間。祖母にとっての、ひ孫が誕生。私の育児を手伝ってくれた、あの心強さ。今も忘れない。

祖母は、御年九十五歳。介護度5。特別養護老人ホームに入所して四年半。私は孫。祖母が入所する施設内の託児所に勤務する。職員さんの大切なお子様をお預かりする保育士。コロナ禍以前は、子どもたちと、ご利用者様との交流が多く持てた。子どもたちの癒しのパワーは多大だ。ご利用者様に笑顔が溢れる。祖母もまた、その内の一人だ。

OFF 時間は、祖母との面会。私たち家族に、温かく応対して下さる職員さん。小さくなってしまった背中を眺めながら、私は車椅子を押す。外の空気を吸う為、正面玄関を出て、散歩へと出掛ける。祖母の笑顔と共に記念写真。しかし、自撮り撮影は手がブレる。後方で見守って下さった機能訓練士さんが、すぐに駆け寄り、「撮りますよ。」と。お陰様で、家族が揃った距離感も程良い、素敵なフォトが完成。これもまた、おもてなしの詰まった一枚の思い出写真となる。

「サっちゃんね〜♪を歌い始めると、続けて歌ってくれますよ。」と介護員さん。そう、祖母の名は、サチコ。親しみ深い歌に、心弾むのだろう。

食事について、お話しして下さる管理栄養士さん。祖母の様子を伺い知ることができ一言一言は、私たち家族に安心をもたらしてくれる魔法の言葉へと変わる。嬉しい、そして有難い。

ご苦勞おかけしますが、今後とも、どうぞ宜しくお願い致します。